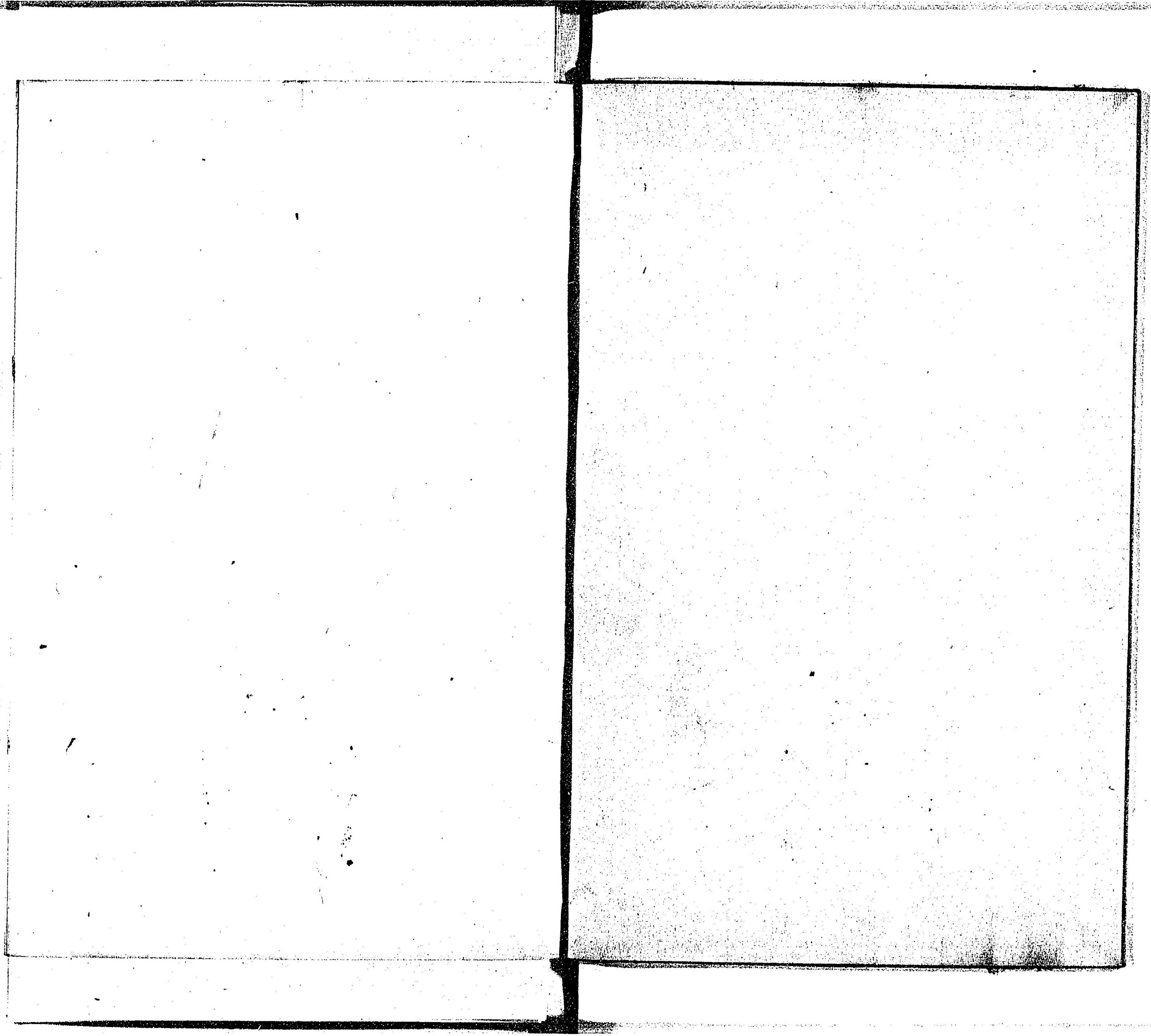


特42  
452

巳六  
清  
安  
定  
神  
妙

255  
145







嵐山

早稲田



花菱種とくし 嵐山

抑是を當今よりし

柳子嵐の山はを今と感か

頼り君は名及を頼り

まきの道はを頼り

急い頼りなまもあ

41 6 30  
内交



















たを白く環嶽の原下は太母河の岩  
根を流るる危山を及ぶたり  
代わくくもきく神持ひ上子振舞  
非樂の鼓声すましく舞饒の枝  
をしろく翻す舞樂は秘曲も廣うさ  
あまの感意肝を銘す折く不思  
瀟々南の方より吹く風の異香薫る

きく環嶽の原下は太母河の岩  
根を流るる危山を及ぶたり  
代わくくもきく神持ひ上子振舞  
非樂の鼓声すましく舞饒の枝  
をしろく翻す舞樂は秘曲も廣うさ  
あまの感意肝を銘す折く不思  
瀟々南の方より吹く風の異香薫る



蓮の咲きぬを放りて四方を照し  
危生とすむの誓しを歎りて  
王権現一時多身回轉異名に姿を  
て各處若山の誓を登りて  
くけつとされわすれも金に  
輝き千本の桜花もくち  
桜の葉行まじく久し

巴

夕切舟

ゆけのたも相のし  
まはるの  
まはるの  
都のよの  
く  
若し











これぞ一まじりたる花の根よ  
少<sup>早</sup>くも花の根よ花の根よ花の根よ  
のまじりたる有難き花の根よ  
花の根よ花の根よ花の根よ  
名を吟を香の月よ一伸は  
佛と現し神となり花をあり花の根よ  
ひそ有難き花の根よ一樹のま

他生の縁となり花の根よ  
一おのすけを花の根よ  
花の根よ花の根よ花の根よ  
あつては花の根よ花の根よ  
日も花の根よ花の根よ  
花の根よ花の根よ花の根よ  
花の根よ花の根よ花の根よ  
花の根よ花の根よ花の根よ







































Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or lyrics, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or lyrics, consisting of approximately 10 lines of text.



みえよとて夕乃をもちて  
花道の場の面きり此籠の落  
しきり千種の花をうきけり行  
方をきりありなる  
所かき心よりなみの秘名のづく正法  
の考をも松皮を早更なる秋は夜  
若月沈渡り庭の面ぬき人おろ面

白かき  
妙あき有程の浄法をれ  
妙あきちくの縁よりなく二度  
愛なるあきり着るあきり  
なよきさるれ月沈渡り庭  
乃面よりあきり女をねりて  
影のよきあきりあきりあきり  
皆成佛若げ妙文若とあきり



花さかすなみだり 春の風  
のさかすなみだり 春の風  
花さかすなみだり 春の風  
花さかすなみだり 春の風  
花さかすなみだり 春の風  
花さかすなみだり 春の風  
花さかすなみだり 春の風  
花さかすなみだり 春の風  
花さかすなみだり 春の風  
花さかすなみだり 春の風

野の千草のさかすなみだり 春の風  
月日経てゆく 春の風  
桜のさかすなみだり 春の風  
お花のさかすなみだり 春の風  
さかすなみだり 春の風  
さかすなみだり 春の風  
さかすなみだり 春の風  
さかすなみだり 春の風  
さかすなみだり 春の風  
さかすなみだり 春の風







船に上りて海を渡る山路を行く  
おのれを舟の舟に月を待たせり  
このまの月を待たせり  
みたり

安宅

ワキ男

是ハ加賀國安宅の濱に舟守を  
おも頼朝義経は兄弟は中不和に  
なすを忍び義経の住居叶りせ  
たまはしむ十三人れはとみ休となり  
奥女秀角を頼朝に下向のり頼朝  
うらむをせ忍びて國を新開とす



山伏さへくさくさせよの事よ  
 くらゝな誰、あれ、今日を山伏達の  
 ぼんやりあつてもおなじか  
山伏 旅の  
 ちろちろすすかけの旅のたを條懸  
 の海あけさ袖あきまらるる  
ササ 門  
 たく屋敷敷の外若松木 田舎  
 の越路のちかおのりもさるる

あれ、梅田傳のくさる  
梅田 伊勢三郎  
 渡河、お良片園益尾常陸房  
常陸 辨  
 慶ハ先陣の染とあつる  
 十三人、あつるあつる松安袖の解會  
 露もあつるあつるあつるあつる  
 時、あつるあつるあつるあつるあつる  
 時、あつるあつるあつるあつるあつる



十日の夜月乃知と出く大津波  
此行を海もふりきりて  
志くわも運坂の山くわすそ  
たふしりもさしりて  
く海津の浦も波もたふ  
ふく明行の海津もたふ  
此の海津もたふ

茅山行きたる松人の  
虎杖河原の水も麻生は  
湊あるあつた原波よ  
岸もたつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた  
あつたあつたあつた















なり。実カニ秀衡を頼ミ山向の  
頼朝聞旨及ミモ治ら國ニお  
をよシ山伏成カシクニ  
聖事モテ下行ス一人モ通  
クシ 聖頼頼より此係  
モ山伏モテ下行ス一人モ通  
毎我おぬき下河の山伏モ

る事ハウキニそれ判官殿  
モ無難ニ通シテ通シ  
キル中ニ事 あり粗  
シクハ後梅ニ事 あり  
不測ニ事 あり  
なる事 あり



華をよみしむるにたもみすは  
るる言ふに「さかすか」の  
の勤めよ〜と華をよみしむる  
あつたあつたあつたあつたあ  
あ勤めよ〜と人をもて  
支山伏のしむる役の傳樂の  
儀を受けしむる其の不明を  
容れ

くまの頭中とすむる智の寶冠  
たる十二因縁のしむる義也  
九會曼陀羅の持者藤原胎  
の胎の胎の胎の胎の胎の胎  
の葉の葉の葉の葉の葉の葉  
の阿吽の二の唱へる男佛  
山伏を〜とあつたあつたあ











されやあはらひ強かなんぞをさへ  
強方まるいなりよつとあてり 其謂  
を作早ちし人ほさむと者のは程  
あましくテ人か人ほしよ不審  
りかひ早誰ほ何とて早あ友  
殿へ何かなんぞあはらひと  
判官殿早何かなんぞあはらひと

しられ早腹早あはらひと強かなんぞ  
はしち早あはらひと強かなんぞ  
あはらひと強かなんぞあはらひと  
あはらひと強かなんぞあはらひと  
あはらひと強かなんぞあはらひと  
あはらひと強かなんぞあはらひと  
あはらひと強かなんぞあはらひと







悪教もさうさうのうれ唯今の横轉  
のうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
加藤のうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
あやういふは海原のうれをさうさうのうれ  
のうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
のうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
是れ毎度うれをさうさうのうれをさうさうのうれ

此は託宣のうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
支世の事業のうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
あやういふは海原のうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
のうれをさうさうのうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
事なるをさうさうのうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
のうれをさうさうのうれをさうさうのうれをさうさうのうれ  
てあやういふは海原のうれをさうさうのうれをさうさうのうれ



十日の今白老難を世に生かす  
唯されかゝる十餘人 慶乃  
さあしん 心ちきく たくしよ 面をあら  
とつ 泣きありあるを 根くれ 夢ゆふ  
義經弓馬の家を 生れ来て 命を頼  
物なまゆ 骸と西海の底に 沈めぬ  
海岸の ありあす 世に 世の 世  
世の 世の 世の 世の 世の 世の

枕片敷 傳もあまのしん ありあ  
くし 風波の 身と 仁を 或は 山脊の  
馬蹄を かくる 曾の中 海を  
ある 夕はの しく 酒の 名  
く 世の 福も なく 敵を  
ひ 世の 甚忠 勅を 流す なる  
世の 世の 世の 世の 世の 世の



思ふに時をばはるまじき世あること  
またさうぞとてくわく様子の直成  
人を苦くして流長は孫増の世は有  
て遠き東南若雲をたかき西北の  
雪霜をぢあつたての浮舟を理を  
終るべしとてむく世の世を佛を  
あつたての世をばはるまじき世あること

怒りの世をばはるまじき世あること  
客信降るに世をばはるまじき世あること  
急ぐに世をばはるまじき世あること  
只この世をばはるまじき世あること  
よかき世をばはるまじき世あること  
酒をばはるまじき世あること  
あつたての世をばはるまじき世あること















念 せ果お安んじ明證ふして  
はなふのうけは美指もなると  
おもは洋なうけはさるは今の世  
美指も存も有難うと唯今美  
この飯の儀あつては入唐渡  
天の子有るうけはあつて  
為る美指もして 思ふおのふ

なれ作れ佛在世の時あつて  
見聞の言もなれ今も言  
寺も 野果地もなれ其  
聖なるを 教の解脱  
上人を次郎とたのめ眼た右に  
手の如くは 晝夜各集る人  
擁護の言もなれ 想



























255  
146

著作權所有

明治四十二年六月廿五日印刷  
明治四十一年六月廿八日發行

著作者

奈良市東城戸町三十八番地

金 春 七



發行所  
印刷者

東京市日本橋區通四丁目七番地

江 島 伊 兵 衛



發行所

同市同町同番地

椀屋謡曲書肆

水ニシキをニシキくニシキしニシキてニシキせニシキよニシキきニシキりニシキ



